

学校運営協議会議事録

校名	府立淀商業高等学校
校長名	村上 憲文

開催日時	令和4年12月10日(土) 12:00 ~ 13:00
開催場所	会議室
出席者(委員)	委員 5名参加
出席者(学校)	村上 憲文 校長、香西 朝夫 事務長、坂脇 康文 教頭
傍聴者	なし
協議資料	次第、令和4年度学校経営計画及び学校評価
備考	

議題等(次第順)
<ul style="list-style-type: none"> (1)学校経営計画及び学校評価について (2)スクール・ミッションについて (3)近況報告、今後の予定について (4)その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)
<p>(1)学校経営計画の中には淀翔モールが含まれているため、淀翔モールと学校運営協議会の開催日を同日とし、午前中に淀翔モールを体験していただいた。学校運営協議会では、淀商モールについての意見や感想が中心であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の淀翔モール(第1回)の販売商品を比較してみると、バラエティーさがなくなっている。 ・あまりにも模擬店の食品が多いので、文化祭的な雰囲気を感じてしまう。 ・過去には、野菜や乾物、地方の物産品、衣類など多くの品種を扱っていた。商品を販売すればよいのではなく、その商品の良さをお客さんに説明するなど、コミュニケーション能力を発揮しながら、商品を購入していただいた。このような実践をする場でもある。そう考えると、まだ決算報告等の実習があるのだが、「淀翔モール」を商業科の実践の結果としてみると、ちょっと寂しい。 ・淀商の特徴は、福祉ボランティア科と商業科が併設していることである。福祉ボランティア科は、手がいっぱい商業要素を含めることは難しいと思うが、商業の中には、福祉の要素を取り入れ、福祉ビジネスとして実践することはできる。 ・グラウンドにはまだまだスペースがあるため、店舗数を増やし、福祉ビジネスの店舗を入れる等を行い、販売商品の領域を広げてみてはどうか。 ・淀商がいま取り組んでいるメタバースは、子供から目が離せなく、自分の時間がない子育て世代にはとても興味が持っている内容だと思う。 ・福祉ビジネスとして、例えば、靴下を販売するにあたり、牛乳パックで靴下を履くための補助用具を作成するか、その型紙を配るや補助具の実演をするなどで、福祉的な要素を含めることができる。 ・生徒が生き生きと活動していたのは印象的であった。 ・「淀翔モール」の日程に無理がある。期末考査終了後の翌日が「淀翔モール」であった。試験期間中に「淀翔モール」の準備をしなければならない、「淀翔モール」のことが気になり、試験勉強に集中できなかったと言っている生徒もいた。などの意見があった。 <ul style="list-style-type: none"> (2)特に意見は出なかった。 (3)特に意見は出なかった。 (4)次回の学校運営協議会の開催時期について説明し、時期が来ればメールで調整することになった。

次回の会議日程	
日時	令和5年2月予定
会場	未定